特定非営利活動法人
シビルNPO連携プラットフォーム

ＣＮＣＰ通信 Vol 20

平成 27 年 12 月 8 日発行

巻頭言

オンリーワンの地域造りと街道

（特非）シビルＮＰＯ連携プラットフォーム　理事
NPO 法人全国街道交流会議　代表理事
藤本　貴也

これまで仕事や NPO の活動を通じて多くの地域造りに関与してきた。その際には次の三要素がどのように機能しているかについて注目するようにしている。「多様な人材」、「オンリーワンの資源」、そして「連携と発信」による「付加価値の向上」である。この中の「オンリーワンの資源」は、通常その土地の自然、歴史、文化、産業と、これらに根ざした風土のなかに存在するものである。私たちの NPO は『街道』を糸口にすることにより様々な地域の「オンリーワンの資源」を発見し、発展させることが出来るのではないかと考えて、全国各地で街道を活用した地域おこしのお手伝いをしている。

人々は街道の沿線で生活し、独自の歴史を積み重ねてきた。特に江戸時代では、著名な日本人や外国人（オランダ商館長の江戸参府に同行した）等が街道を往来し宿場に泊る機会をとらえては、その土地の文化人が話を聞くために集まってきた。これにより国内外の最新の文化、芸術、科学、技術が日本各地に伝搬し、更に各地域で独自の発展をとげた。街道を通じて当時の様子をたどることにより、その地域の誇りである「オンリーワンの資源」を発見することができ、多くの「ものがたり」がその資源の奥行きを形成していく。

たとえば街道の沿線には、過去の自然災害の被災者を悼むとともに、後世に教訓を残すために多数の碑が存在する。また東日本大震災では、羽州街道の一部や多くの神社が、津波の到達線の外縁部に位置していることがわかった。南木曽町では土石流を「蛇抜け」と呼び、災害から身を守るための数々の民話や言い伝えも残っている。私たちはこれらを「歴史防災」と名付けて多くの地域で事例の収集をしつつある。

街道を往来した人達から、地域間の歴史的なつながりが蘇ることもある。博多の人達の間では聖一国師が疫病除去のため祈祷水の散布を行ったことが祇園山笠の起源であることは良く知られていた。一方その生誕地である静岡の人達の間では聖一国師は静岡茶の始祖として知られていた。新静岡空港が開港し福岡便が開設される機会に、私どもの NPO が聖一国師を通じた両者の繋がりを相互に紹介したことから、その間の歴史的な縁が再認識され、両県市の首長や関係者の定期的な交流が始まったという事例もある。

街道をたどることは、地域の人の誇りを蘇らせ、地域を訪れる人の関心を高め、地域と地域のつながりを深めるための有力な手段ではないかと思う。街道を通じた地域の再発見により一層関心を深めて頂ければ幸いである。